

このスポット・おすすめ!

国産大豆の甘みを堪能 焼きドーナツと豆腐の専門店 宮里豆腐ドーナツ店

自家製の豆乳とおからを使い
体に優しいおやつを目指す
原材料に自家製の豆乳やおからを使用し、九州産の小麦粉などを配合した、油で揚げない「焼きドーナツ」が人気のお店です。大豆はすべて九州産を使い、可能な限り添加物は未使用。店長の宮里詩織さんは「小さなお子様から年配の方まで、安心して召し上がりたいだけです。甘さも抑えていますので、男性のお客様も多いですよ」と話しています。

オープンのかっかけは、以前から「大豆好き」だったご主人の宮里学さんが、九州で食べれた国産大豆の豆腐の味に感銘を受け、「自分でも豆腐作りに挑戦したい」と思い立ったこと。試行錯誤を重ねて、もめん・ろろ・おぼろ豆腐を完成させ、後にゆし豆腐が加りました。

その傍らで詩織さんは「豆腐作りの過程でできる大量のおからと豆乳を生かさないだろうかとお菓子作りを研究。そして「せつかくなら、体に優しいおやつを目指したい」と考え、たどり着いたのが「焼きドーナツ」でした。味は現在、プレーン、レーズンなど12種類をそろえ、新作や季節限定品も続々と登場します。

「焼きドーナツが未経験の人はぜひ一度味わってみてください。大豆本来の甘さとおいしさを感じてもらえれば」と詩織さん。9月21日(木)にはオープン3周年を記念して、特別セールなどのイベントを企画しているとのこと。

住所：沖縄市高原 4-11-3
電話：098-930-3160
時間：10:00~18:30(売り切れ次第閉店)
休み：日曜日、第1月曜日
駐車：4台
HP：http://www.tofu-donut.jp
(おもなメニュー)
*ドーナツ
プレーン...130円、チョコチップ...150円
レーズン...150円、バナナ...170円
うちな-黒糖ドーナツ...160円など
*夏季限定!
国産・大正金時豆の沖縄ぜんざい
(豆腐おだんご入り)...500円
※商品はすべてテイクアウト限定。電話予約OK



読者プレゼント

このスポット・おすすめコーナーで紹介の『宮里豆腐ドーナツ店』で使える



3名様

「かばん」の文字を
みくんでみよう



Q なぞなぞ
かばんの中にある
体の大きな動物は?

8月号当選者 前号の答え(ホテル)

- ★安谷屋 千恵さん(豊見城市在住)
- ★中川 誠一郎さん(読谷村在住)
- ★長浜 和子さん(読谷村在住)

ワイワイ広場

読者プレゼント応募方法

宛先 読谷村字伊良皆237-1
ウインズ『広報誌係』

①住所 ②氏名
③年齢 ④職業
⑤電話番号

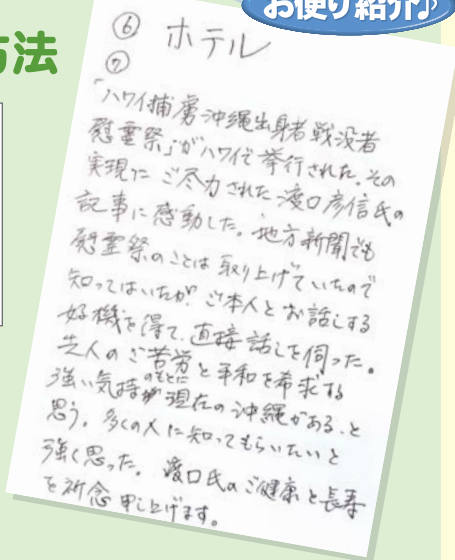
裏 ⑦ご意見
ご感想

応募者の中から抽選で、読者プレゼントを進呈致します。どしどしご応募下さい!

締め切り

2017年9月20日消印有効
「当選者は次号(Vol.157)にて発表致します」

『Freshウインズ』は、建築でお手伝いをさせて頂いた施主様をはじめ、地域にお住まいの方など、ご縁をいただいた皆様に配布致しております。諸事情により配布不要となった際は大変お手数ですが、その旨ご連絡下さい。(ウインズ広報誌係)



Fresh ウインズ

人と人とのつながりを大切に...池原建設が大切なお客様にお送りする手作り広報誌



今月の歳時記

9月6日(水)

第23回 高志保大通りエイサー天国
会場・開催地/読谷村・高志保大通り

9月15日(金)~17日(日)

第62回 沖縄全島エイサーまつり
会場・開催地/沖縄市・胡屋十字路周辺、コザ運動公園陸上競技場

9月16日(土)・17日(日)

オリオンビアフェスト2017
会場・開催地/沖縄市・コザ運動公園サブグラウンド

9月30日(土)・10月1日(日)

第37回 野國總管まつり
会場・開催地/嘉手納町・兼久海浜公園

今年の旧盆は9月3日(日)~5日(火)。恒例の沖縄全島エイサーまつりをはじめ、9月は県内全域で旧盆にちなんだ祭事が行われます。夏の暑さも徐々に影を潜め、過ごしやすい日が多くなってきました。残すは台風の心配ですね。



↑那覇市 嘉手納町 名嘉病院 比嘉川 読谷高校 ファマリート おきなわ 道の駅 読谷番所 名護市→

↓沖縄防衛省 沖縄防衛局 ↓沖縄市

(株)池原建設 企画事業部ウインズ
〒904-0303 沖縄県読谷村字伊良皆 237-1
営業時間 / 9:00~18:00 (年末年始を除く)

住宅のメンテナンスや
補修等のご相談は、お気軽に
スタッフへお声掛け下さい!

☎0120-229-512 ウインズ 池原建設 検索



Street Story!

地域の歴史的・シンボリックな建築物を次代へつなぐ 神戸市「ふたば学舎」に見る保存・活用の取り組み



神戸市長田区にある、ふたば学舎校舎内で「立ち上げ当初は、困難なことも多々ありましたが、私の人生で有意義な時間を過ごさせてもらいました。」と振り返る向さん。

今月は沖縄を飛び出して、日本を代表する港町・神戸市から、歴史的・文化的建築物の保存活用の事例と、それに携わったウチナーンチュ神戸人の向恵子さん(63、嘉手納町出身)の奮闘ぶりをご紹介します。1929年に建立され、震災・震災を乗り越えた旧神戸市立二葉小学校は、2006年の廃校後、一度は取り壊しが決まったものの、地域住民らの強い要望を受けて存続の道が開け、10年に「神戸市立地域人材支援センター」(現・ふたば学舎)として再スタートを切りました。保存運動の初期から活用検討委員会などのメンバーに名を連ね、同センターを運営する「NPO法人ふたば」で昨年まで事務局長を務めた向さんに、現在の校舎を案内してもらいました。

具体的な活用方法を提案し 旧校舎存続の道を開く

窓や廊下にアーチを多用した、モダンなデザインが印象的な旧二葉小学校校舎。



歴史をひもとくと、小学校の校舎に鉄筋コンクリート造を採用したのは全国でも神戸市が先駆けてした。1920年以降に続々と建設が始まり、旧二葉小学校もそうした時代の流れの中で29年に完成しました

るには、耐震工事費とその後の維持管理費が必要になる。継続の声を届けると同時に、現実的・効果的な活用方法を提案すべき」と主張。当初は婦人会だけの運動だったものを他の団体へと押し広げて、検討委員会の設置、ワークショップの開催へとつなげていきました。また「どういう形で保存するか、将来どうしていきたいかは、地域が主体的に決めること」との立場を貫き、周辺住民にアンケートを実施したりワークショップへの参加を呼びかけたり、草の根的に声を集めて、活用案に反映できるように働きかけました。

結婚・出産後は 家庭に専念し 50歳で社会人再デビュー

向さんのプロフィールを簡単に紹介しましょう。

90年近く前から実際に使われていた教室を活用。オープン直後の稼働率は30パーセント前後で推移していましたが、向さんの退任時には60パーセント超まで上昇しました

嘉手納町出身で読谷高校OGの向さんは、東京の大学を卒業後、都内の法律事務所へ就職。結婚・出産を経て専業主婦となり、間もなくご主人の実家のある神戸市北区へ居を移し、当時でも珍しい「四世代同居」の暮らしを経験しました。家庭と子育てに専念する傍ら、「まったく見ず知らずの土地で、親類を除けば一人も知り合いがない生活。少しでも地域に溶け込み、交流を広げようと婦人会に入りました」。持ち前の明るさと旺盛な好奇心で熱心に活動に取り組み、道場町婦人会副会長にも就任。ご主人の実家が農家だったことから、地域の農会

長も務めました。大きな転機は50歳のとき。子育てが一段落し、ほっと一息ついたのと同じタイミングで、「神戸市婦人団体協議会の文化教室の主任として運営してほしい」と声がかかりました。「やりたいならチャレンジすればいいよ」とのご主人の後押しもあり、引き受ける覚悟を決め、二十数年ぶりに「社会復帰」を果たしました。「元来がバリバリ仕事をした性質だった」という向さんは、プランクを感じさせない働きぶりである評価を獲得。やがて長田区連合婦人会のつながりで旧二葉小学校存続の相談を受け、保存運動に携わるようになりました。

新施設を立ち上げ 軌道に乗せる 故郷への恩返しも模索中

地域人材支援センター(現・ふたば学舎)の事業は、建物の管理・運営全般のほか、神戸市から指定管理料を受けて(つまり税金で)行う公益性の高い「センター事業」と、NPOの利益を上げるために自由に取り組む「自主事業」の二つに大きく分かれます。指定管理者の手腕としては、施設の魅力を高めてたくさん利用者を呼び込



「楽しく講座」の発案は、地域の人財発掘が目的。低額な賃料設定で講師のチャレンジを促し、独立を支援

む企画力・発想力と、それを自主事業の利益につなげる経営力が問われます。向さんは若者顔負けの柔軟な発想で、ユニークな企画を次々と立ち上げました。例えば建物全体が旧校舎を転用した施設であることから、さまざまな分野の講師の独立支援を目的に、各教室を低額の賃料で貸し出す「楽しく講座」や、過去の卒業生を対象にした「同窓会事業」を展開。また震災時に避難所になったストーリー性を生かし、センター事業の震災体験学習と絡めて修学旅行生の受け入れを行い、防災をテーマにした大学生のシンポジウムなども実施しました。このほかレトロモダンな建物の雰囲気やコスプレ愛好者の



「コスプレ撮影会」では近隣の大正筋商店街とも連携。衣装のまま通りを歩いたり、商店街イベントに参加してもらったり、協力体制を確立

また旧校舎のある神戸市長田区は、95年の阪神・淡路大震災で大きな被害を受けたエリアです。とりわけ火災被害が広範囲に拡大し、学校にもすぐ手前まで火の手が迫りましたが奇跡的に難を逃れ、震災後は校内で最大約2000人が避難生活を送りました。その後は生徒数の減少により、06年に廃校。校舎は解体され、マンション用地として民間に売却される計画でした。しかし地元の人材会を中心に校舎存続を求める声も広がり、自治会、商店街など、同じ意志を持つ24団体が集まり、07年に「二葉小活用検討委員会」を結成。同年活用案をまとめて神戸市に提案したところ、市長が「地域活性化の拠点となるよう、人が集まる拠点として耐震工事を考えましよう」とコメントを発表。解体・売却から一転して、校舎の存続・活用が決まりました。向恵子さんは長田区ではなく、市北東部の北区在住です。婦人会の活動を通じて保存運動に関わるようになり、初期の頃から「校舎を解体せず保存す

の間で評判になり、全館貸し切つての撮影会を毎月2回開催。その際の入場料の一部は近隣商店街のクーポンに充てるなど、今では地域ぐるみのイベントとしてすっかり定着しています。